

第1 地価公示結果における本県地価のポイント

1 平成30年1月1日における本県の地価は、住宅地では6年連続上昇し、商業地では5年連続上昇した。上昇幅は住宅地、商業地ともに拡大した。

(1) 平均変動率をみると、住宅地では0.7%（昨年0.6%）、商業地では3.2%（昨年2.4%）上昇した。

(2) 上昇、横ばい、下落地点数の割合をみると、住宅地では、上昇地点が54.3%（昨年52.6%）、横ばい地点が29.1%（昨年30.4%）、下落地点が16.7%（昨年17.0%）となった。

また、商業地では、上昇地点が65.3%（昨年62.2%）、横ばい地点が20.9%（昨年25.7%）、下落地点が13.8%（昨年12.1%）となった。

2 地域別の地価は、住宅地では、名古屋市、尾張地域、西三河地域は上昇幅が拡大、知多地域、東三河地域は下落幅が縮小した。また、商業地では、住宅地同様、名古屋市、尾張地域、西三河地域は上昇幅が拡大、知多地域、東三河地域は下落幅が縮小した。

(1) 地域別の平均変動率をみると、住宅地では、名古屋市で1.3%（昨年1.2%）、尾張地域で0.8%（昨年0.6%）、西三河地域で1.4%（昨年1.2%）上昇したが、知多地域で $\Delta 0.5\%$ （昨年 $\Delta 0.7\%$ ）、東三河地域で $\Delta 1.1\%$ （昨年 $\Delta 1.4\%$ ）下落した。

また、商業地では、名古屋市で6.2%（昨年4.8%）、尾張地域で1.2%（昨年1.1%）、西三河地域では1.0%（昨年0.8%）上昇したが、知多地域で $\Delta 0.7\%$ （昨年 $\Delta 1.1\%$ ）、東三河地域で $\Delta 0.9\%$ （昨年 $\Delta 1.1\%$ ）下落した。

(2) 市町村別の平均変動率をみると、住宅地では、長久手市など32市町（昨年32市町）で上昇したが、南知多町など15市町村（昨年14市町村）で下落した。

また、商業地では、名古屋市など25市町（昨年23市町）で上昇したが、美浜町など15市町（昨年14市町）で下落した。

(3) 名古屋市各区の平均変動率をみると、住宅地では、港区を除く区で上昇した。

また、商業地では、南区、港区を除く区で上昇した。

3 最も大きい上昇率を示した地点は、住宅地では、「名古屋中-5（栄5丁目）」（9.8%）、商業地では、「名古屋中村5-11（椿町）」（25.1%）であった。

一方、最も大きい下落率を示した地点は、住宅地では、昨年と同じく「南知多-7（豊丘）」（ $\Delta 7.0\%$ ）、商業地でも、昨年と同じく「田原5-2（福江町）」（ $\Delta 6.9\%$ ）であった。

(1) 住宅地では、変動率上位5位までの地点は名古屋市中区、昭和区、豊田市及び長久手市の地点となった。

また、商業地では、変動率上位5位までの地点は名古屋市中村区、中区及び東区の地点となった。

(2) 住宅地では、変動率下位5位までの地点は南知多町、美浜町及び田原市の地点となった。

また、商業地では、変動率下位5位までの地点は田原市、南知多町、美浜町及び新城市の地点となった。